

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式						
M314M106		イムノメタボリズム学Ⅱ (Immunometabolism Ⅱ)					コース共通専門分野		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態					
必修	1	1	医学部先進医療科学科	後期	金5	日本語				単独					
担当教員	氏名 小林 隆志														
	E-mail kansen@oita-u.ac.jp 内線 5702														
授業の概要	免疫系の機構を細胞レベルおよび分子レベルで理解し、病原体に対する免疫反応、先天性および後天性免疫不全症候群(acquired immune deficiency syndrome : AIDS)、主な自己免疫疾患とアレルギー疾患、さらに、がん細胞に対する免疫系の反応を理解する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	免疫組織・細胞の構造と機能、分化と成熟の過程を説明できる							○							
目標2	免疫系の一般特性、生体防御機構、免疫調節機構について説明できる							○							
目標3	免疫反応の人為的調節（ワクチン、免疫抑制剤）について説明できる							○							
目標4	免疫機構の破綻による疾患（免疫不全、アレルギー自己免疫疾患、がん）の発症機序を説明できる							○							
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度（計10）								10							
授業の内容															
1	免疫学総論・自然免疫（免疫細胞・炎症・補体）														
2	自然免疫（パターン認識・食食細胞・I型IFNとNK細胞）														
3	獲得免疫（抗体・B細胞）														
4	獲得免疫（T細胞）														
5	免疫系による生体防御機構														
6	免疫系の調節機構														
7	免疫機構の破綻による疾患（アレルギー自己免疫疾患）														
8	免疫機構の破綻による疾患（免疫不全、がん）														
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ライクニング	A:知識の定着・確認	○	演習、小テスト				エス夫の他の	動画の活用、LMS(Moodle)の活用							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(8h)。												
	事後学修		小テストや配布資料を用いて復習する（16h）。												
	想定時間合計		24												
教科書	エッセンシャル免疫学（第4版）メディカル・サイエンス・インターナショナル ピーター パーラム 2023年														
参考書	Janeway's免疫生物学 原書第9版（監訳：笹月健彦 南江堂）2019年														

成績 評価 方法 及び 評価 割合	評価方法		割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	筆記試験		90%	○	○	○	○						
	小テスト、レポート課題		10%	○	○	○	○						
注意事項	講義スライドおよび動画は学内限定とし、無断で学外配布することを禁止する。												
備考													
リンク													
	URL												